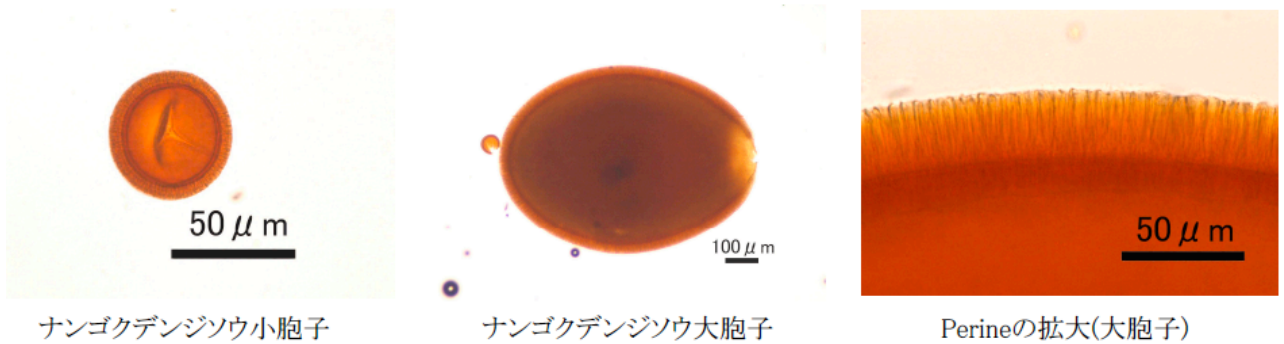


デンジソウ属の孢子形態と古環境指標

田中 義文(パリオ・サーヴェイ株式会社)

デンジソウ属は日本に2種あり、浅い水域に生育するシダ植物である。これまで、各地の低湿地遺跡(北は青森県、南は沖縄県)において、類似の孢子が検出され、海外の報文と形態記載が類似することから、デンジソウ属類似の孢子として同定してきた。今回市販品のナンゴクデンジソウを栽培し、孢子嚢をKOHとアセトリシスで処理し、グリセリンゼリーで封入して大孢子、小孢子をそれぞれ観察した。小孢子はTrilete型で約50 μmの球形。Perineは厚く(約5 μm)、薬品処理後においても外膜から剥離しない。大孢子は、卵型で大きさは500-700 μm程度。1孔ありやや突出する(Papillate?)。Perineは小孢子と同様厚く(約25 μm)、剥離しない。Perineの断面は、大孢子、小孢子ともに柵状の構造が明瞭で特徴的である。化石で検出される小孢子は、Perineがはずれかけたものもみらるが、現生と同じ形態を持っている。大孢子は、花粉分析での検出例はないが、大きさから種実分析でも検出される可能性があり、注目していきたい。

これまでの検出例は、東京低地や大阪平野、静清平野などで多い。サンショウモなどの水生シダ類や、オモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属などと随伴することが多く、水田のような浅い沼沢域を指標する種類として重要である。



ナンゴクデンジソウ小孢子

ナンゴクデンジソウ大孢子

Perineの拡大(大孢子)

